豊栄広報

12月号
第24号

発行所
新潟県北蒲原郡
豊栄町中央公民館

印刷所
下越出版社
新発田市寺町裏 電2234

みんなそろって新正月へ

昭和三十五年は百パーセントか
新正月に踏み切る各地区の状況

昭和三十五年度新正月の実施については十一月十二日町が主催して各団体の長など百四十名が出席して協議されました。

全般的な傾向としては「すでに新正月の実施を啓蒙する段階をすぎている。新正月をやらねばならないという気運が高まっているので、いまさら新らしくこれを啓発する必要がない」というのが一般的な意見でした。しかし今年の実績あるいは過去の例からみて、継続的に毎年実施するよう呼びかけることによって実があがるということで大体今春実施した要領に基づいて昭和三十五年度も行なうことを申し合わせました。また町としても隣接町村や郡の町村会に対してそろって新正月を実施するよう強力に呼びかけています。

葛塚地区

今年は七九・五%の実施率を示していますが、今年実施しなかった太田地区の大部分が来年から実施することを申し合わせているので、さらに実施率が上るものと見られています。

中央公民館では、今月八日に各団体の代表者による新正月実施協議会を開いてさらに全戸これに踏み切ることを申し合わせることになっています。

今年は昨年のように水害という弊害もなかったので新正月に踏み切ろうというのがこの地区の動向です。

木崎地区

笹山学区の各部落が実施しなかったために六八・一%という低い実施状況でした。しかし昨年からの要望である三十五年から実施しようという気運が具体化しており、この学区が新正月に踏み切ることはほとんど確実とみられており、公民館では改たまって新正月運動を啓蒙する必要はほとんどないものとみています。

岡方地区

大迎部落を除く全部落が、今年から新正月を実施し九五・五%という最高の実施率を示しました。

大迎部落ではすでに新正月に踏み切ることを申し合わせており、来年は一〇〇%の実施率を示すものとみられています。

長浦地区

今年は大むね六割程度が実施したもようです。そこで公民館では五日に地区新正月実施協議会を開き、さらにこれを推進することにしていますが、葛塚、木崎、岡方の三地区とそれに隣りの水原町がすでに新正月をおこなっているので全戸が実施することは容易なものとみられています。

十億円の巨費を費やし
国道新潟～新発田間完全舗装なる

県内最上の長距離道路として各方面の注目をあびていた一級国道七号線新潟～新発田間の舗装工事が完工し、十一月二十二日新発田市御免町小学校で盛大に完工式が行なわれました。

昨年十一月内島見地内の約三百メートルを残しほとんどの完工をみたのですが、この地点は昔泥田を埋立て道路を敷設したため地盤が軟弱でしばらく舗装が見送られていたものです。そこで国営舗装工事とは一応別個な県営地盤工事として地面に穴をあけて砂利を押しこむ工事が行なわれ、このほどこの部分だけアスファルトで固められようやく完工しました。

この国道七号線は新潟市を起点として青森まで北上する長距離路線で、昭和六年に国道の指定を受け、それ以来新潟、新発田間の完全舗装に二十八年間という長い年月が費やされています。

この間を振り返ってみると舗装工事に着手しながら新潟海老ケ瀬間程度しか工事が進まないうちに戦争で一時ストップ、戦後泰平橋の架替えに続いて建設省国道整備五カ年計画によって、二十九年から泰平橋東詰から新発田市猿橋間の突貫工事が開始されました。

完工した国道7号線（内島見地内）

新潟市本町柾谷小路四ツかどを起点として新発田市猿橋までの間二十七キロ、巾七・五メートル、コンクリートの厚さ二十三センチというこのデラックス道路にはおよそ十億円という巨費が費やされています。

この完工によって産業、交通、文化などその恩恵ははかり知れないものがあります。

変ったところでは新発田市と同市体育会で新潟市山木戸間折返し四二・一九五キロをマラソンコースに設定しており、全国でも有数の折紙つきということです。

ともあれ私たちの町では国道完全舗装のスピードアップで人や物の動きが激しくなり隣接する新潟市、新発田市とはさらに密接なつながりが生まれることになるでしょう。

十二月号主要記事

。新正月運動の動き
。国道七号線完工
。民生委員改選
。上水道拡張事業完工間近